

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1294200082		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム白井富士		
所在地	千葉県白井市富士73-89		
自己評価作成日	平成27年1月22日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/12/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=1294200082-00&PrefCd=12&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-3-404
訪問調査日	平成27年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしい』ということを大切に、日々の生活に寄り添う支援を行っております。
 ご入居者様一人ひとりが、自分らしく生活出来るよう“衣食住”を大切にしながら、認知症という病気と向き合い、生活しております。その為にも必要不可欠なことは、喜怒哀楽に溢れた生活を日々行うことであり、ご入居者様が悲しまれているときには『受け止める』ということです。時には、認知症により浮かび上がる困難なことでも、“諦めない介護”をすることにより、新たな生活へと導かれます。そして、社会との繋がりを大切に、支援を受ける側に存在することなく『相身互い』を大切に、地域へも積極的に参加しております。『施設という時間割ではなく、一人ひとりの生活の時間』が、その人らしく生活出来る入口と考え生活しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所と地域とのつきあいについて、八幡神社の清掃は入居者と職員が自主的に参加し、地域で開催される夏祭りや餅つき、豆まきなどにも積極的に参加している。当市南山地区の認知症に関する会議で提案のあったオープンカフェも近々スタートする運びとなっている。
 事業所のユニット間には玄関広間が有り、オルガンが置かれ持参した入居者が巧みに曲を弾いてくれた。玄関広間の壁には子どもたちが大きな紙に事務所周りの散歩コースを描いて貼ってある。中庭の畑に小松菜、春菊、ホウレンソウなどを植え、入居者に、もう一つの住まい感覚でいられている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議開催前に唱和を行い、その意味への追求を念頭に置き、支援の方向性を考えております。	ユニット会議で職員に対し法人の価値基準や運営理念及び各自が携帯するクレドカードに記載されたケアの信条等について詳しく解説している。その結果は入居者とのコミュニケーションの良好さに表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の第二月曜日の八幡神社清掃や、地域のイベントなどに積極的に参加を行っております。	八幡神社の清掃は入居者と職員が自主的に参加し、地域で開催される夏祭りや餅つき、豆まきなどにも積極的に参加している。南山地区の認知症に関する会議で提案のあったオープンカフェも近々スタートする。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域包括と協力し合い、『認知症カフェ』への開催を目指しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設全体でケアする方向性などをご家族様へ報告し、意見をいただいた際には必ず反映することを心がけております。	市の高齢福祉課、民生委員、区長、地域包括支援センター、入居者家族等が出席している。入退居者・事故等、運営状況の報告に加え計画や取り組み内容について説明し、意見や提案を聞き運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域主催の会議などに積極的に参加することにより、地域住民の方と協力し合い、関係性を築いております。	地域包括支援Cに関わりのある入居者が多いので、当Cへは毎月様子を報告している。また南山地区で催された認知症に関する会議では、認知症の種類やケアについて意見を交換するなど市との連携を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットや玄関の施錠については、一切せず、日中はご入居者様が自由に出入り出来る環境に努めております。	毎月の会議の際に切れ目なく「身体拘束をしないケア」を教育をし、マニュアルも貼付している。また気付いた点はリーダーとホーム長が個別に注意を促している。独りで外出する人には職員が離れて付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体や言葉の虐待にも気を配り、ご入居者様を敬う気持ちを忘れぬよう支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修のプログラムの一つであり、そのような事例が発生した際には、地域包括との連携を密にとり、対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改訂などが生じてしまう際には、必ずお便りやお電話でご説明し、また契約締結などにも必ずご家族様のお話を伺っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱の設置の他、意見などをいただいた場合は必ず情報共有とし、進捗状況などをご家族様などに報告しております。	本部の行う家族アンケートで家族の意向を把握すると共に、面会時にホーム長かリーダーが面談し個別に意見・要望を聴いている。また家族会議やカンファレンスの際にも意見や要望を聞き運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、職員アンケートの実施を行い、職場改善などの意見なども伺い、反映に努めております。	ユニット会議では担当職員から入居者の様子やケアについて意見を聞き運営に反映している。また、リーダー及びホーム長は日々職員の表情をキャッチし、悩みを聞き出し改善を図るなど、環境整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望による勤務希望などを出来る限り実現出来るように運営しております。また、向上心を持って働けるよう、しっかりと念頭に置きながら、やりがいのある職場環境を整えることに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修として、他事業所への研修などを行い、ケアのアイデアを取り入れる環境を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会や地域会議などに参加し、自身への成長と事業所の成長として、取り組んでおります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを必ず行い、ご家族様及びご本人様の要望に重点を置き、ケアプランへと反映しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の不安な気持ちが一刻も早く解消できるよう、何度かお会いすることによって親しみある顔になるよう、入居前にご訪問などをしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅への訪問の際に、生活状況を確認し、現在ご本人様が困っていることを見極め、またご家族様からも同様にお話を伺い、適切な支援が受けられるよう心がけております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様同士にコミュニティーと築けるよう、台所仕事やお掃除、談話などあらゆる場面において環境支援を行っております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の誕生会や毎月のお便りなど、ご家族様との時間をご家族様任せにすることなく、職員からも働きかけ実施しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の誕生会にお友達を招待したり、自宅へに職員と一緒にいくことで、今まで築き上げてこられた交流関係を大切に支援しております。	神社の清掃や地域のイベントで旧知の人に会う、自宅へ着替えをとりに帰ると近くに住む友人に会う、定期的に家族や友人が面会に訪れるなど、事業所は入居者が地域や人との関わりを継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活において、各コミュニティーが存在し、衝突するときも決してそれらを離さず、相身互いであるよう環境作りを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様へお便りやお電話などをし、一度出会ったご縁が育めるよう、関係性を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の早朝散歩や、図書館へ定期的に出ることなどをケアプランにも組み込み、日々の支援に努めております。	入居者が自分たちで「栗の木通り」「柿の木通り」と称する自治会を創って、自分たちの部屋にそれぞれ表札を掲げ、自治会を開催する回欄を回している。その中で職員も参加し、出かけたい所を決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とご家族様とのコミュニケーションやカンファレンスを通じて、ご入居までの生活環境や生活歴をお聞きし、アセスメントを行っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やケア日報などを通じて入居者様一人ひとりのお気持ちの変化、健康状態の様子を把握し、その時に必要な支援が行えるよう支援しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月に1度のサービス担当者会議と定期的(半年～1年に1度)にご本人様やご家族様とカンファレンスを行い、その時のご本人様のご要望や必要な支援を話し合い、できる限りケアプランに組み込んでおります。	モニタリングは担当者会議で実施し、介護計画は半年に1回また、状態の変化に伴いその都度見直しを行っている。申し送りノートやケア日報で申し送りをし、事務所や休憩室に設置して全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録やケア日報へご様子などを個別に記入し、職員間で申し送りをし、情報を共有できるよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の外出したいお気持ち、ご自宅へ帰りたいなどの想いやご要望に、その都度お答えできるよう事業所全体で取り組んでおります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の八幡神社への参拝、神社の清掃に参加しております。また、運営推進会議に地域の方などに出席していただいたりと、交流が持てるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医(2週間に1度)、またはかかりつけ医への受診に関して、本人やご家族のご要望に添いながら適切な医療が受けられるよう医療とも連携を図っております。	2週間に1度往診医が来所し、歯科医については毎週往診に来ている。また、年1回無料で検診をしてくれる。かかりつけ医の受診で特に精神科については職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師(毎週金曜日)に入居者様のご様子を伝え相談し、その都度適切な指示や看護を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際の病状報告時にはかならずご家族様と立ち合いを行い、その都度連絡や相談を行っております。また、連携医療機関として鎌ヶ谷総合病院となっております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方向性を検討する場合には早い段階で、ご本人様とご家族様と話し合いを行っております。また訪問医療とも連携が図れるよう努めております。	重度化や終末期のあり方については、入居時の契約の際に説明し理解してもらっている。入居者の疾患や今後の流れを作成し、改めて家族に説明している。今年度は看取りの方が1名発生した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハットや事故報告書での情報の共有を図り、年に1度の救命講習、事業所内の研修などを通じて、緊急時に備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、近所の八幡神社を避難所とし職員間で協力体制を整えております。	消防署員が来所し、日中の火災を想定した消火器の使用方法等についての講話を行った。その他夜間に居室からの火災発生を想定した自主訓練を実施した。非常食については、カンパン・米・水など18人分を3日分確保している。	今後、八幡神社に拠点を持つ自主消防団協力し、共同で実施する訓練等を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症だからという偏見を持たず、人生の大先輩として敬い、関わりをもっております。	入居者に認知症の症状について説明している。入居者の中には「私は認知症でね・・・」という方もいる。普通の病気と同じように考え、今後どうするか一緒に考えている。受け止めない方にはタイミングを図って言っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中やホームでの自治会の中で入居者様の思いや希望等意見を出して頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に行きたい、買い物に行きたい等の希望を聞き、入居者様の希望にそった生活の支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等買い物に出掛けたり、訪問理美容を利用し、カット、パーマ、カラー等入居者様の希望にそった身だしなみやおしゃれの支援を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等入居者様と一緒にっており、今では入居者様から積極的に行う姿勢が見られております。	食事の準備は、野菜を切る、買い物に行く、味付けをする等入居者と職員が一緒に行っている。冷蔵庫から食材を選んだり、毎日漬物を作ってくれる入居者もいる。後片付けは皆で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量、水分摂取量の把握に努めており、摂取量が少ない時はスタッフ間で情報共有し合い摂取できるよう支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前の口腔ケアの促しに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が多い入居者様は排泄パターンの把握や排泄サイン等スタッフ間で情報共有し合い、排泄の支援を行っております。	足をバタバタさせたり、尻を押さえる等の排泄サインをスタッフ間で共有し、また、時間帯で排泄パターンを区別したりして、習慣づいて自らトイレへ行くようになった。殆どの方がパンツでおむつの使用者は居ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳をお出ししたり、水分摂取の促し、運動の促し等個々に応じた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく時間帯等決めず、入居者様の希望に合わせた入浴の提供を行っております。	介助が必要な方には夕方職員が多い時に入浴してもらっているが、殆どの入居者は自由に入浴を楽しんでいる。入浴が嫌いな方でも散歩の後などに3日に1度は声掛けを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動と休息のメリハリをつけたり、就寝前温かい飲み物を提供して安眠出来る様支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、申し送りノートを活用しスタッフ全員が薬の把握が出来る様努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報や入居者様から生活歴の把握を行い、役割や楽しみごと等の支援を行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望にそった外出やスタッフからの外出のお誘いを行い、日常的に外出出来る様支援しております。	ゴルフの練習や水泳には職員と一緒に雨の日でも出かけている。散歩がてらに近くのスーパー等買い物に出かけたり、駄菓子屋へ行くこともある。八幡神社でお花見や敬老会で大洗海岸へ行ったり、房総半島へ行ったりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、入居者様にお金を所持して頂き買い物等を楽しんで頂く様支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話時、入居者様に電話を変ったり、入居者様希望時ご家族様に電話をして頂く様支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様にとって居心地良く過ごせるよう整理整頓や環境整備に心がけております。	ユニット間に玄関広間が有り、オルガンが置かれ持参した入居者が巧みに曲を弾いてくれた。玄関広間の壁には子どもたちが大きな紙に事務所周りの散歩コースを描いて貼ってある。中庭の畑に小松菜、春菊、ホウレンソウなどを植え、入居者に、もう一つの住まい感覚でいてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は中庭や玄関ホールに行かれ、気の合った入居者様同士の語らいの場としてソファや中庭のベンチ等提供しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自宅で使用していた私物を持ち込んで頂き、なるべく自宅で生活していた頃と変わらない様な居室の配慮を行っております。	照明、エアコン、タンスは常設され、仏壇、テレビ、ベッド、絨毯、カーテン等入居者が自宅で使用していた私物を持ち込んでいる。友人の面会は居室で行っている。音のトラブル等は出来るだけ男性の入居者に仲裁してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が調理時包丁等も使用して頂くが、必ずスタッフが傍にあり、安全に配慮した支援を行っております。		